

# 令和元年度 自己評価結果報告書

牧之原認定こども園

(湊認定こども園)

- 本園の教育及び保育目標
- 子ども達一人一人がよりよく生きる力の基礎を育てる
- 子どもが安全で安定した生活ができるよう環境を用意し、自己を十分に発揮しながら健全な心身の発達が図れるようにする
- 養護と教育が一体となって豊かな人間性を持った子どもを育む

## 保育目標

元気：心身ともに健やかな子	・ 広々とした環境の中で戸外遊びを多く取り入れ、心も体ものびのびと過ごす ・ 身近な環境に親しみ、季節を感じてあそぶ ・ 食育を通して食の大切さを知り、何でも食べられるようになる
やる気：よく考え工夫して意欲的に遊べる子	・ 園生活の中で自分の考えや発想を広げながら、遊びを楽しむ ・ いろいろな遊びを通して工夫しようとする ・ 自分で目標を決め、それに向かって友達と協力してやり遂げようとする
思いやり：友達と気持ちを共有して仲よく遊べる子	・ 色々な活動や遊びの中で、協調性を培い社会性の基礎となる態度を身につける ・ 人の話や行為に対して、豊かな感覚や感情を育む ・ 言葉や会話で解決する力を育む。また、解決できる喜びを知る ・ 園生活、あそびを通して善悪を知ったり、ルールを作ったり守ったりする ・ 共有する全ての遊具や、地域の公共物や公共施設を大切にする心を育み、公德心を培う

## 2、本年度、重点的に取り組む目標・計画

- 幼保連携型認定こども園においては、生きる力の基礎を育むため、3つの資質・能力「知識・技能の基礎」・「思考力・判断力・表現力の基礎」・「学びに向かう力・人間性等」及び幼児期の終わりまでに育って欲しい10の姿を一体的に育めるよう、様々な経験を計画的に実施していくものとする。

• 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	取り組み状況	今後の取り組み・課題
地域に根づく認定こども園としての仕組み機能の理解	地域のイベントや活動に積極的に参加している。また、認定こども園の機能をPRするとともに新設の子育て支援センターに地域の多くの子育て中の親子が利用している。建物の利用を今後も促す。	過疎化が進む中ではあるが、今ある活動の維持を目指す。
保育の計画性	教育要領に準拠した教育課程の見直しを行う。教育のあり方と保育のあり方の共通点を探すとともに、分離する課題を幼保連携という意味合いから融合させる。	こども個人月次の反省だけではなく、年間を通して次のステップへの課題を明確にする。
計画案の検討	外部講師の活用や研修報告を生かす。また生かす場合には、短期的に終わらぬよう計画を立てる。	長期プランの設定にはまだまだ課題が多い。マニュアル化を考える。

子どもの実態の職員共通理解	各クラスの課題を園内研修や職員会議等で共有。	外部講師からの課題検討職員内研修で問題を共有。
職員の資質向上	専門性をより深めるため園内・外研修等を受講して、職員の資質向上に努める。また、園内で外部講師による研修を受けることにより、多くの職員が同時に共通理解できるようにする。	専門性をより深めるため園内・外研修等を受講して、職員の資質向上に努める。また、日々の保育・教育については職員間で振り返りを行うとともに、次につなげていく。
保護者のニーズの把握	意見箱を設置したり、今年度より全家庭を対象に個別面談を実施することで保護者の要望や苦情（相談）が園に届きやすいようにし、出された意見は報告書に記載して、職員間の共通理解を図り、必要な措置を講ずる。	職員が常に保護者とのコミュニケーションを密に取ることで、支援の方法やニーズを把握する。クラスで出された意見・要望・苦情（相談）は園全体の事と捉え園の考え方を示したり、改善すべきものは改善するように取り組む。
保護者との連携	毎月、園だより、クラスだより、ほけんだより、給食献立表を通して園の取り組みを伝える。また、必要事項は連絡帳や口頭で伝えたり、日ごろの保育を写真やポートフォリオで観てもらい、保育参加では一年間の成長をDVDにして観てもらったりするようにし、保育内容を伝えている。	家庭支援の視点を持ち、こどもの育ちを共有するとともに、保護者との信頼関係を築く。保護者との面談を定期的実施するとともに行事等や提出物に関しては、なるべく早く詳細をお知らせするようにしていく。

<p>小学校との連携</p>	<p>小学校へのスムーズな移行の為に基本的な生活習慣の指導及び、保護者への情報提供、又、幼保小連絡会に参加し、現在の課題を把握する。小学校との交流会を持ち、子どもの期待を高めている。日頃の園外保育等で小学校へ行く機会を設けたり交流を行っている。</p>	<p>年長児、および年長児の保護者が安心し、期待を持って進学できるような取り組みを行う。また、進学する年長児が生きる力を獲得できるよう、地域の小学校と連携し、課題の解決に努める。年長児だけでなく、他のクラスにおいても段階的に、小学校とのつながり交流を持てるようにする。</p>
<p>子どもの健康と安全</p>	<p>成長に伴った保健計画に基づき、健康の増進・疾病の予防を図ることを目的とし、子どもたちが自分の身体に興味関心を示せるよう、一年を通し、計画的に活動を取り入れている。安全な日常生活が送れるよう、日々園内外の点検を実施。感染症やアレルギー等の知識を職員が共有し、現状の把握と対策を行っている。</p>	<p>子ども達の緊急対応が必要となった時にも慌てず対応できるように救護に関する研修を増やす。今後も、感染症・アレルギーに対する理解を深めていく。</p>
<p>安全管理</p>	<p>毎日、園内外の玩具の点検、遊具の点検を行い、子ども達が安全に生活できる環境を作る。また、毎月避難訓練を行い緊急時に慌てず行動できるように指導するとともに、消防士によるAEDや避難訓練の実演講習を実施している。 新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、感染予防、その他必要な対応を行う。</p>	<p>施設遊具の点検、おもちゃの消毒などにとどまらず、子ども達の目線に立った安全を心掛け、未然に防ぐ努力をする。また、園全体でAEDや避難訓練の実演講習を受講し、現場で使えるように職員間で知識・技能を習得する。園外活動において、マニュアルに沿ったコースを再度見直し、安全の徹底を図る。 新型コロナウイルス感染症に関して、正確に情報を把握し、適切な対応を行う。</p>
<p>子育て支援事業</p>	<p>地域に開かれた施設遊具を目指して、子育て中の親子が気軽に集い相互の交流や子育ての不安、悩みを相談できる交流の場を提供する。親子遊び、母親リフレッシュ講座、自主活動、こども園との交流、お試しランチ、育児相談などの保護者支援の充実を図っている。一時預かり事業において、地域の子育て家庭への支援を行っている。</p>	<p>園内でこういった子育て支援事業を行っているかをより解りやすく知らせる方法を考慮して、保護者の方が気軽に利用できるよう地域に開かれた園として取り組んでいきたい。</p>
<p>園外への情報発信</p>	<p>掲示板を活用し、来園者に取り組み</p>	<p>今後も、ホームページや標識（看板）</p>

	内容を発信している。ホームページを開設し、園の概要及び、教育・保育内容の情報公開をしている。問い合わせ等にも順次、対応している。	などで情報発信を積極的に行い、保育の概要を伝えていく。
--	--	-----------------------------